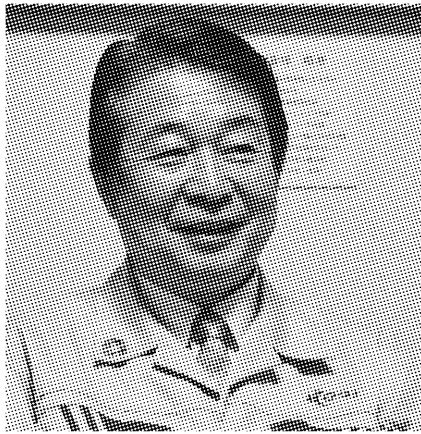


挑む

モノづくり ヒトづくり



虹技社長

山本 幹雄氏

虹技は鋳物や送風機などの製造を手がける。内製率向上などを目的とした設備投資を遂行。人材育成の一環として、アフリカのマラウイにソーラーボイラを設置する事業にも協力する。山本幹雄社長に取り組みの目的などを聞いた。

(大阪・岩崎左恵)

「ショットブラストや門型マシニングセンター(MC)などを導入しました。内製率を上げ、物流コ

ストの削減や納期の確実性を向上させるために導入した。鋳物の砂落としなどを行うショットブラストは、従来5層まで社内に対応し、それ以上は外注していた。現在は10層の製品まで対応できる。不具合があった場合もすぐに現場でフィードバックができ、品質向上につながる。大型の門型MCは外注していた鋳物の機械加工の仕上げ工程用に導入した。以前は粗加工のみ行うことはあった。加工分野を強化したことで作業者の知識も身に付く」

「大型鋳物事業部と鉄鋼事業部を統合しました。品質管理を統合でき、人手不足解消につながる。取り扱う製品の大きさも似ており、設備や安全に関わることをより共有できる。人材についても以前より流動性が高まる。一つのこと

内製率上げ 品質向上に一役

に特化するよりも、さまざまな経験をすることが大事だ。営業に関しても取り扱う幅が広がるため、モチベーションアップにもなる」

「製造現場での課題は、

「脱炭素社会に向けた省エネルギー対策が課題になる。建屋内の発光ダイオード(LED)照明化や、太陽光パネル設置による売電などは行っている。何十年単位で使用している電気炉を効率の良いものに更新することなども検討する」

「人材育成のため、コミュニケーション強化や海外に人材を派遣しています。」

「新型コロナウイルス感染症拡大前は運動会や懇親会、講演会などでコミュニケーション強化を図っていた。新型コロナウイルスが5類に引き下げられた後は、社内でのコミュニケーション強化の費用として上・下期で1回ずつ、1人5000円の

懇親会費を会社で負担する。また、挑戦をし世界を見てもらいたいという理由でNPO法人のカラーバス(山口県周南市)に協力し、マラウイでソーラーボイラ設置事業に取り組んでいる。若手向けの報告会をし、行きたいという社員がいれば今後も行かせたい」